

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

福井県鯖江市

2021年9月

SDGs未来都市計画名

福井県鯖江市 SDGs未来都市計画

自治体SDGsモデル事業

持続可能なめがねのまちさばえ ～女性が輝くまち～
女性が輝く「めがねのまちさばえ」

～女性のエンパワーメントが地域をエンパワーメントする～

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（1）計画タイトル

福井県 鯖江市 SDGs未来都市計画 持続可能なめがねのまちさばえ ～女性が輝くまち～

（2）2030年のあるべき姿

鯖江市固有の資源を最大限に活用することにより、地域のブランド力が高まり、魅力ある雇用が生まれ、若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりが実現される。
また、今後も鯖江市が将来にわたって成長力を確保できるよう、経済界や市民、大学等が協働で経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組んでおり、特に、女性がすべての分野において重要な役割を担い、持続可能な地域社会の構築に貢献している。

（3）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



（4）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	女性起業家数(累計)[5,c]	2019年3月 20人	2020年 31人	2021年 35人	73%		
2	サテライトオフィス誘致件数(累計)[8,3,8,5,8,9]	2019年3月 6件	2020年 8件	2021年 10件	50%		
3	成長分野の技術開発、海外販路開拓件数(累計)[9,2,9,b]	2019年3月 27件	2020年 30件	2021年 35件	38%		
4	学生連携によるまちづくり提案数[11,3]	2019年3月 14件	2020年 6件	2021年 19件	32%		
5	まちづくりの提案をする団体数[17,17]	2019年3月 51団体	2020年 51団体	2021年 51団体	100%		
6	外来植物防除活動取組み箇所[6,3,6,6]	2019年3月 5か所	2020年 2か所	2021年 3か所	150%		
7	ごみの1人1日あたりの排出量[9,4,9,b]	2019年3月 920グラム	2020年 942グラム	2021年 870グラム	-44%		
8	空き家利活用件数(累計)[12,2,12,5,12,8]	2019年3月 9件	2020年 16件	2021年 19件	70%		
9	環境フェア等の参加者数[13,3]	2019年3月 13,000人	2020年 715人	2021年 15,000人	5%		
10	新素材を活用した印刷物の利用件数(累計)[14,1]	2019年3月 0件	2020年 3件	2021年 10件	30%		
11	森づくり事業 植樹苗木数(累計)[15,2]	2019年3月 3,000本	2020年 9,000本	2021年 9,000本	100%		

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

コロナの影響もあり、海外に向けての取組や、県外の学生との連携事業、大人数を集めて実施するイベント等がほとんど実施できなかった。また、家にいる時間が長くなった影響からかごみの排出量も増加しており、2020年度においては進捗が停滞している。しかしながら、その他の取組については、達成に向けての施策が着実に実施された結果となっていると考えている。目標達成に向け、現状の取組にアフターコロナ、ウィズコロナ対策を加味し、オンラインを積極的に活用したり、少人数単位の講座やワークショップを開催したりしながら、普及啓発に努め、行動を促進するような取組を図っていく。また、「さばえおもちゃの病院」や「おもちゃの図書館」の積極的な活用や、4R（リユース・リデュース・リサイクル・リフューズ）やエシカル消費の啓発、修理・塗りなおして長く使える地場製品の開発・PR、ごみ有料化の検討などにより、ごみの減量化を図っている。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	① SDGsの普及啓発とシェアリングエコノミーの活用	SDGs推進補助金の支援件数(累計)	2018年度 0件		2019年 2件	2020年 2件	2021年 8件	25%
2	② 女性が輝くまち鯖江の推進	多様なワークスタイルを推進するセミナーの参加者数	2018年度 71名		2019年 102名	2020年 400名	2021年 100名	400%
3	③ 健康福祉のまちづくりの推進	高年大学活動参加者数	2018年度 37,000人		2019年 38,000人	2020年 1,000人	2021年 38,000人	3%
4	④ 鯖江モデル教育の推進	ふるさと学習の参加者数	2018年度 2,700人		2019年 3,348人	2020年 785人	2021年 3,000人	26%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

経済・社会・環境の3側面における好循環や相乗効果を創出し、多様なステークホルダーとの連携を図る拠点として、2020年9月に「さばえSDGs推進センター」を福井県眼鏡協会のご協力のもと、本市のランドマークである「めがね会館」9階に開設した。「さばえSDGs推進センター」には、市の職員3名と地域おこし協力隊であるカナダ出身の女性1名が常駐し、市民や学校、企業等の相談や講演会などを実施。センターにおいても、企業や市民団体と連携し、オンラインを活用したセミナーや少人数でのカードゲーム体験会等を開催している。男女共同参画・女性活躍推進地域活動拠点施設「夢みらい館・さばえ」と連携し、ワークライフバランスを推進するセミナーの開催や推進する経営者の会「さばえ38組」を市内企業17社で設立。企業リーダーのネットワーキングを回り、女性活躍推進に対する意識を高め、市全体に広げることが目的としている。2021年2月には「さばえグローバルクラブ」を開設し、本市のSDGs推進に賛同する産官学民等の様々な企業や団体を市内外問わず参加会員とした。クラブ会員の取組の情報共有やイベント・研修会の発信、センターで開催する研修会等の案内などを行っており、活動の活性化や事業の拡大を目指している。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

昨年度はコロナの影響もあり、公民館等に集まる活動が制限されたこともあり、研修会等がほぼ実施されなかったため、進捗が伸びなかった。（高年大学はクラブのみの活動で、授業等は休校した。2021年度は10月から約1か月程度開校予定。ふるさと学習については、小中学校の休校や公民館の休館、開館時間制限で、参加者数が落ち込んだ。）多様なワークスタイルを推進するセミナーについては、「夢みらい館・さばえ」や「さばえSDGs推進センター」の2か所を活用しての少人数での開催やオンラインを活用した実施により、予想以上の参加者数になった。2021年度についても、コロナの影響は続いており、公共施設の利用制限もあるため、市民活動にも制限があり、目標達成は厳しいことが見込まれる。ただ、地域や学校において、SDGsに取り組み動きは活発化しており、相談件数も増えているため、オンラインを活用したセミナーや感染対策を講じた活動の実施により、目標達成に努めていく必要がある。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・女性の活躍を掲げ、SDGs推進センター、さばえ38組、鯖江グローバルクラブなど、独自性のある活動を積極的に展開している点は高く評価される。地域企業や地域金融機関と連携した地域経済活性化の活動を一層活性化することが望まれる。
 ・鯖江市のSDGs未来都市計画は、人口減少時代において、家庭、職場、地域におけるジェンダー平等の実現するという、数少ないジェンダーに焦点をあてた計画であり期待が大きかった。今回の報告では、コロナであってもオンライン等を積極的に活用して事業達成に向けて努力した姿勢が見られ大いに評価される。女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」と「さばえSDGs推進センター」の二つの拠点がうまく連携して、女性活躍を受け入れる素地と女性自身が手をあげていく積極性が生まれており、今後の他地域へのモデルケースとなると思われる。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業又は取組名

女性が輝く「めがねのまちさばえ」～女性のエンパワーメントが地域をエンパワーメントする～

(2) モデル事業又は取組の概要

経済・社会・環境の3分野において、女性が輝くまちづくりを軸とした「居場所」と「出番」づくりを創出することで、女性のエンパワーメントを生み、子どもや男性、地域のエンパワーメントにつなげていく。

そして、そのような環境づくりの中で、性差ない、誰もが活躍しやすい場生まれ、女性の意思決定への参加の促進やリーダーシップの機会の拡大を図っていく。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
【経済】								
①-1 サテライトオフィス誘致事業 ①-2 成長分野技術確立・販路開拓事業 ①-3 越前ものづくりの里プロジェクト事業	空き家を活用し、サテライトオフィスの誘致を図るため、オンラインセミナーやフォーラム、鯖江市体験ツアー等を行う。	サテライトオフィス誘致件数(累計)	2019年3月 6件		2019年度 6件	2020年度 8件	2021年 10件	50%
①-4 「めがねのまち鯖江」元気再生事業 ①-5 特産物ブランド化事業	医療やウェアラブル情報端末等、成長分野への参入を目指した製品開発を促すとともに、国内外の見本市出展等、販路開拓を促す。	成長分野の技術開発、海外販路開拓件数(累計)	2019年3月 27件		2019年度 30件	2020年度 30件	2021年 33件	50%
②-1 クリエイティブ教育都市事業 ③-1 シェアリングスペース推進事業	全小中学校でプログラミングクラブを開催し、IT社会を支えていく子供たちを育成する。越前漆器職人の育成やデザイン、経営的な視点を学ぶことができる「職人塾」「創業塾」事業に取り組むと同時に産地の魅力向上を図っていく。	女性起業家数(累計)	2019年3月 20人		2019年度 27人	2020年度 31人	2021年 35人	73%
【社会】								
①-1 提案型市民主役事業(「鯖江市OC課」事業を含む。) ①-2 学生との連携事業(「鯖江市役所」K課)事業を含む。)	市が行っている事業のうち、市民が「新しい公共」の担い手として自ら行ったほうが良い事業を提案し、市が委託する。	まちづくりの提案をする団体数	2019年3月 51団体		2019年度 51団体	2020年度 51団体	2021年 51団体	100%
②-1 女性が輝くまち鯖江世界発信事業 ②-2 第5次鯖江市男女共同参画プラン事業 ②-3 輝く女性のヘルスケア事業 ②-4 女性が働きやすい環境づくり応援事業 ②-5 選べるワークスタイル推進事業	地元住民との交流や地域産業との触れ合いを通じて、市内外の学生が主体となり、地域活性化など、まちづくりへの提案を行う場を設け、出された提案は市の施策に反映させ、具現化を図る。	学生連携によるまちづくり提案数	2019年3月 14件		2019年度 15件	2020年度 6件	2021年 19件	32%
②-6 「わたしの日プロジェクト」事業 ③-1 SDGs教育推進事業 ③-2 ふるさと教育推進事業	時短勤務など、女性が働き続けやすくするための環境整備に取り組む市内事業者を支援する。	新たに女性の働きやすい環境整備を行う企業数(累計)	2019年3月 0社		2019年度 4社	2020年度 7社	2021年 12社	58%
④-1 地域公共交通の再編事業 ⑤-1 めがねのまちさばえSDGsプラットフォーム事業	自己肯定感を高めるセミナーや家事シェアについての講演会を開催するなど、「男性の意識改革」「女性の参画意識の向上」を柱とした第5次男女共同参画プランに基づいた施策を推進する。	審議会等における女性の登用率	2019年3月 32.1%		2019年度 34.1%	2020年度 34.7%	2021年 35%	99%
【環境】								
①-1 持続可能な素材活用推進事業 ①-2 さばえエコ農業支援対策事業 ①-3 COOL CHOICE & SDGs普及啓発事業	各種団体と連携し、食品ロスやエシカル消費、4Rについての研修会や出前講座を開催。間伐材を使ったものづくりの紹介やフードドライブを行い、ごみ減量化の普及啓発を図る。また、市内小学生の自発的な環境活動を促進し、環境に対する意識の向上を図る。	ごみの1人1日当たりの排出量	2019年3月 920g		2019年度 931g	2020年度 942g	2021年 870g	-44%
①-4 空き家再生等推進事業 ②-1 こどもエコクラブ活動支援事業	空き家の再生を主な目的として、市内空き家を有効活用するための改修費を支援することで利活用の推進を行う。	空き家利活用件数(累計)	2019年3月 9件		2019年度 13件	2020年度 16件	2021年 19件	70%

2. 自治体SDGsモデル事業

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

経済面については、コロナの影響が大きく、成長分野の技術開発、海外販路開拓の事業については、コロナ対策関連グッズの開発支援事業に変更せざるを得なかったこともあり、増加は見込めなかったが、小売業やサービス業に女性の起業家の微増もみられ、商工会議所、金融機関と連携して、創業塾や「女性起業家応援支援金」等の創業支援が実を結んでいると考えられる。IT企業を中心に、サテライトオフィスも微増しており、2021年度には「ワーケーションフォーラム」を県や関係機関と連携して開催し、誘致に取り組んでいる。社会面については、県外の学生と連携し、本市をフィールドワークしてまちづくりの提案をする事業は、コロナの影響で実施できず、件数が大幅に減。2021年度についても、オンラインで実施する予定であるが、件数は減少する見込み。テレワークや時短勤務の導入など、コロナ対策も見据えて、女性が働きやすい環境を整備する企業が微増した。2021年度は女性のみならず、多様な働き方ができる環境整備に取り組む企業の増加を目指す。環境面については、コロナ禍でステイホームにより、ごみが増加。資源化率も減少傾向にあり、分別意識や4Rの啓発を進め、ごみの有料化を視野に入れた減量化を図る。空き家の利活用については、市民団体や地域おこし協力隊のマッチングや相談会の取組により、企業や福祉施設への利活用が進んでいる。2021年度についてもすでに2件あり、順調に伸びているので、円滑な連携をとりながら、促進を図る。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

女性活躍プラットフォーム創出事業 ～鯖江から世界へ～

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

SDGsを三側面において展開し、市民や市民団体、企業などあらゆるステークホルダーのエンパワーメントを育むためには、様々な要因によりその潜在的ポテンシャルが十分に活かされていない女性のエンパワーメントを引き出すことがより効率的であると考え、鯖江市の女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」と産官学民が連携・協働して、SDGs推進に取組む施設「さばえSDGs推進センター」を拠点とし、居場所と出番の創出および障害となるインポスター症候群等、自己肯定感を高める対策に取り組んだ。また、これらの取組みを通して、多様な世代や様々なステークホルダーが活動し情報交換を行う場を設けたとともに、国内外に向けて鯖江市の取り組み状況を発信し横展開を図った。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
<p>●今後、女性が働きやすく社会参画しやすい風土が醸成されていくことにより、求職を希望する女性が増加するとともに、求人希望する都市部の企業がサテライトオフィスを開設し、サテライトオフィスとして利用される空き家の需要が増加することにつながっていく。2020年には、市内にサテライトオフィスが2社開設され、「ワーケーション」にも積極的に取り組んでいる。空き家の利活用はNPOや地域おこし協力隊等と連携し、マッチングや相談会を行い、オフィスだけでなく作業所としての活用も増えてきている。</p>	<p>●今後、女性が働きやすく社会参画しやすい風土が醸成されていくことにより、女性起業家や女性の正規職員が増加するとともに、都市部の企業がサテライトオフィスを開設することにより、都市部の事務系で賃金体系が都市部並みの、若者や女性に魅力ある職場の増加が見込まれ、人口の流出を防ぐことができる。家族経営や男性従業員が多くを占める製造業に対し、施設の改修や時短勤務制度の整備など、女性が働きやすく、働き続けやすい環境を整えられるよう促した。企業組織におけるリーダーの意識改革と女性活躍推進のネットワークを市全体に広げるため、ワークライフバランスに取り組んでいる市内企業を中心とした経営者の会を発足。女性活躍推進を中心としたSDGsへの先進的な取組みを「見える化」し発信することで、若者や女性に関心が高まり、様々なまちづくりにかかわる事業が生まれた。コロナ禍の中、県内外から教育旅行等の研修先としても問い合わせが増えている。若者や女性が多い、活気ある本市のイメージにより、市内企業の活性化や県外企業との連携など、地域経済活性化につなげていきたい。</p>	<p>●コロナ禍や最近の異常な気象状況により、地球温暖化や気候変動など、環境問題に関心が高まっている。新しい生活様式の中で、ごみの減量化や4RについてもNPOや女性を中心に地域活動の中で取組が始まっており、「おもちゃの図書館」「おもちゃの病院」といった場や「フードドライブ事業」「食べきり運動」など、企業や学校と連携して実施している取組もある。また、停滞した地域経済の活性化を図るために、環境に配慮した商品を開発し販売したり、エンカル消費の視点を生かした商店街づくりを促進する動きがあったりとSDGsの関心も高くなり、学校や地域のまちづくり活動など、市内の啓発活動も活発化している。</p>

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】空き家利活用件数(累計)	2019年3月 9件		2019年度 13件	2020年度 16件	2021年 19件	70%
2	【環境→経済】成長分野の技術開発、海外販路開拓件数(累計)	2019年3月 27件		2019年度 30件	2020年度 30件	2021年 33件	50%
3	【経済→社会】まちづくりの提案をする団体数	2019年3月 51団体		2019年度 51団体	2020年度 51団体	2021年 51団体	100%
4	【経済→社会】新たに女性の働きやすい環境整備を行う企業数(累計)	2019年3月 0社		2019年度 4社	2020年度 7社	2021年 12社	58%
5	【社会→経済】サテライトオフィス誘致件数(累計)	2019年3月 6件		2019年度 6件	2020年度 8件	2021年 10件	50%
6	【社会→経済】女性起業家数(累計)	2019年3月 20人		2019年度 27人	2020年度 31人	2021年 35人	73%
7	【社会→環境】ごみの1人1日当たりの排出量	2019年3月 920g		2019年度 931g	2020年度 942g	2021年 870g	-44%
8	【環境→社会】学生連携によるまちづくり提案数	2019年3月 14件		2019年度 15件	2020年度 6件	2021年 19件	32%
9	【環境→社会】審議会等における女性の登用率	2019年3月 32.1%		2019年度 34.1%	2020年度 34.7%	2021年 35%	99%

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

2020年9月に開設した「さばえSDGs推進センター」がSDGsの推進に予想外に大きく求心力を持つ拠点になった。コロナ禍や近年の異常気象、世界の経済情勢に加え、学習指導要領に導入されてきたことにより、SDGsへの関心が高まっていることで、センターに相談や提案が集まり、その中で新たな事業や連携が創出されたり、広がっている。企業と共催した啓発活動や研修会、サステナブルアート展、オンラインイベント等開催しており、このような活動を通じて情報発信することで、シティプロモーションにつながり、県内外の企業や市民団体から問い合わせや事業提案などを受けている。旅行会社から教育旅行の受け入れ先としての提案もいくつかあり、これまでの学生連携のノウハウを生かし、本市のものづくりやまちづくり活動を学んでいただくことで、地域経済の活性化につなげていく。合わせて、地場産業の技術開発や海外販路開拓、新産業への進出より、企業の視察先や研修場所としても活用いただけるよう、取組を広げていきたい。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

コロナの影響で、施設の利用制限や人数制限もあり、たくさんの方が集まるイベントの開催や研修会を頻繁に実施する機会が減ったことや、少人数開催やオンライン開催で実施したため限られた人だけの情報発信になり、広く市民に啓発することができなかった。しかしながら、これらの制限や市民生活への経済的なダメージが共助の精神をうみ、「めがねのキャッシュバックキャンペーン」や「フードドライブ」、「コロナ対策グッズの開発」など、市民団体や企業と連携し、協働で事業を展開する機運の醸成につながった。本市のジェンダー平等の取組に賛同して、カナダ出身の女性が「地域おこし協力隊」として赴任したことで、SDGsのこのような取組をSNSを活用して、日本語と英語で広く情報発信しており、国内のみならず、海外のフォロワーも増えている。オンラインでの情報交換が増えていることにより、気軽につながること、県内だけでなく県外の団体とも活動が広がっており、SDGsの啓発やPRだけでなく、3側面に関する事業の展開にも一層広がっていくよう、取組の推進を図る。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

（7）有識者からの取組に対する評価

- ・「夢みらい館・さばえ」と「さばえSDGs推進センター」、サテライトオフィスの誘致など、居場所と出番の創出ができています。インボスター症候群等、自己肯定感を高める対策も効果が生まれていると感じる。事業とともにKPIの立て方が非常に上手であると感じる。ものづくりの集積もあり、これに新しい女性やデザイナーが加わることで、世界に一気に近づくため、大いに期待できる。
- ・女性活躍をテーマにしたプラットフォーム創出事業はユニークで、活動内容もSDGsの取組として適切で、高く評価される。女性起業家支援の取組など、地域経済活性化についても具体的な成果が上がっており評価できる。
- ・地域金融機関とも連携して、地方創生SDGs金融に係る活動を強化していくことが期待される。